

(仮称)福岡市青少年科学館基本計画概要

別紙

これまでの経緯

- 平成23年3月 少年科学文化会館基本構想検討委員会を設置（平成24年6月まで8回開催）
- 平成24年6月 （仮称）福岡市青少年科学館基本構想（案）を市議会第2委員会に報告
・子どもの育ち・学びの場として必要な機能を満たすコンパクトな施設に。
- 平成24年7月 パブリックコメント手続きに準じて、市民意見を募集
・コンパクトながらしっかりと科学を学べ、子どもが夢や未来を広げられる施設に。
- 平成24年10月 （仮称）福岡市青少年科学館基本構想～福岡市少年科学文化会館再整備～策定
- 平成25年3月 建設予定地及び事業手法の方向性について市議会第2委員会に報告
・建設地は九州大学六本松キャンパス跡地とし、民間が整備する施設に賃借入居する方向で検討。
- 平成25年6月 一体開発・賃借入居を前提として、UR都市機構と協議を続けることを市議会第2委員協議会に報告
・ワンフロアの面積が広く、ユニバーサルデザインの観点からも望ましい柔軟な諸室配置や統一的な景観により、拠点性の向上を期待。

科学館の視点、まちづくりの視点、財政負担の観点から総合的に検討した結果、一体開発・賃借入居方式が最適であると市議会第2委員会に報告
- 平成25年8月～11月 こども・市民・ユニバーサルデザインワークショップ、有識者ヒアリング実施
・科学館は子どもの体験だけでなく家族のふれあいの場、世代間交流の場として期待。
- 平成25年12月 （仮称）福岡市青少年科学館基本計画中間報告を市議会第2委員会に報告
・子どもが学校とは異なるアプローチで学べ、双方向かつ自主的に参画できる施設に。
- 平成26年3月 UR都市機構による公募結果とJR九州からの計画概要、提案内容を市議会第2委員会に報告

基本構想のポイント

再整備の必要性

- | | |
|--|--|
| 社会的動向 | 福岡市の状況 |
| <ul style="list-style-type: none">○ 子どもの理数離れ・理工系学生の減少○ 科学・情報技術に対する正しい知識の重要性○ 理科教育環境の向上の必要性 | <ul style="list-style-type: none">○ 将来を担う優れた人材の育成が市の成長に不可欠○ 着実に根付いてきた知識創造都市づくりの取り組み○ 大学等最先端の知の集積→人材流出抑制の課題 |

少年科学文化会館

- 科学館として設計されておらず、展示施設が不十分
- 展示が更新されず時代に合わない
- 施設の老朽化・耐震性の不足

子どもたちの学力の向上と福岡の将来を担う人材の育成に寄与することを目的として科学館を再整備

科学館の方向性

<基本理念>

時代をこえ、世代をこえ、地域をこえて…
人と科学の出会いを通じて、学び、つながり、未来が広がる。

1 事業活動の方向性

- (1)楽しむことを基本に、参加・体験を重視し、科学への興味を高める
- (2)ここでしかできない、いつ来ても新鮮な科学体験ができる
- (3)学校や大学等多様な主体と連携
- (4)少年科学文化会館の活動の発展
- (5)福岡の将来を担う人材等の育成

2 施設展開の方向性

- (1)科学への興味を高めるために必要な施設環境を整備
- (2)誰もが使いやすく、利用しやすい
- (3)団体利用を考慮した諸室配置・機能
- (4)利用者相互や利用者と館との連携・コミュニケーションの場を確保

3 管理運営の方向性

- (1)専門的なスタッフの配置
- (2)市民ボランティアの活用
- (3)学校や大学、NPO等多様な主体と連携した運営体制
- (4)自己評価・外部評価の実施と運営への反映
- (5)利用しやすい開館時間等設定

I 基本構想を踏まえた基本的な考え方

◀ 科学館を目指す4つの目標像 ▶

学校や家庭ではできない体験により科学への好奇心や気付き・発見を引き出すために

子どもたちが体験し、楽しむことで、自由に、自発的に学べる科学館



福岡の特色を知り、福岡に愛着を持ち、福岡の将来を支える大人になるために

福岡の人や資源と連携し、福岡の将来を担う人材を育成する科学館



二世代、三世代にわたってリポーター、ひいては科学館ファンを獲得するために

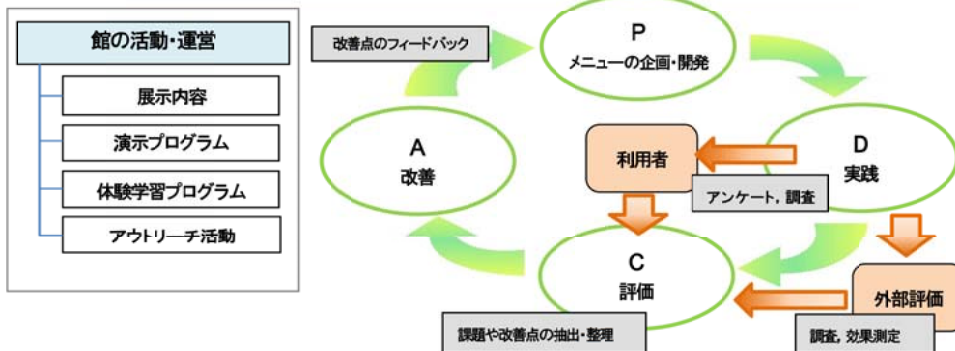
子どもたちと双方向に関わり、交流し、みんなで育てる科学館



※平成25年度実施子どもワークショップの風景

目まぐるしく進歩する科学技術の「いま」と出会うために

評価・改善により、いつ来ても新鮮で、いつ来ても楽しめる科学館



II 管理・運営

1 『科学館を目指す4つの目標像』を実現するための管理・運営の基本方針

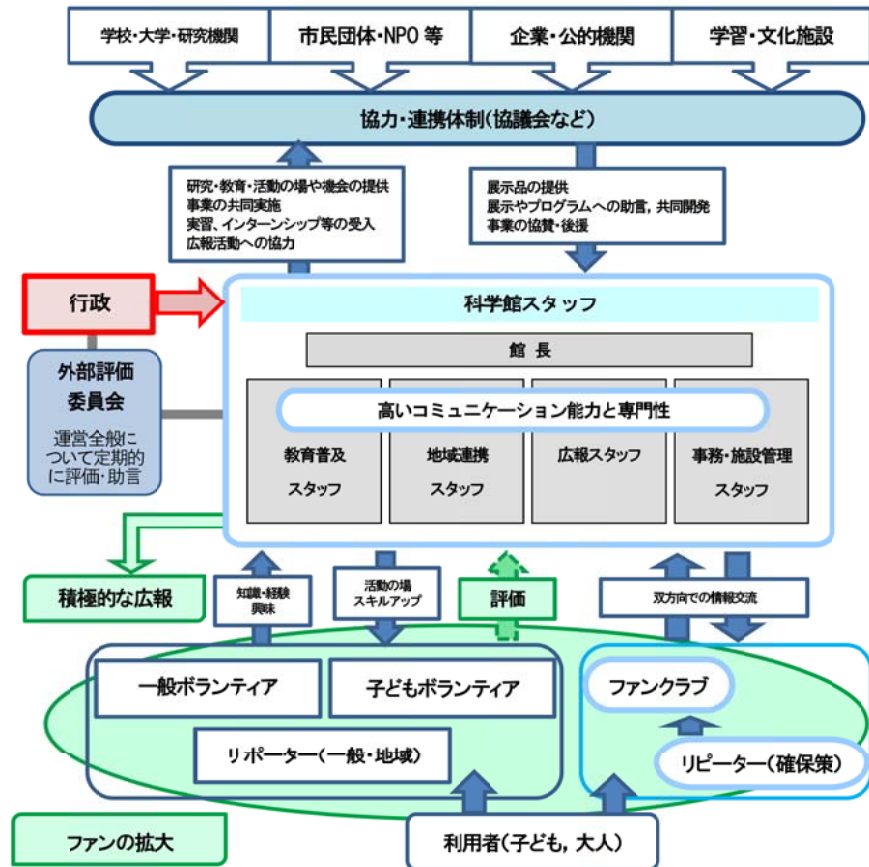
子どもたちの学びを促す高いコミュニケーション能力や専門性を持つスタッフの配置
利用者とのコミュニケーションを重視。また、自前で企画開発、改善できる体制

学校や大学、NPO、企業など、様々な主体と連携
学生の力、市民の力、企業の力を活かし、密接に協力しながら、館の運営を充実

子どもや市民が科学館活動に参画できる体制
子ども・市民ボランティア体制の構築と、高校生の参画を促進する仕組み

利用者が参加する継続的な改善サイクル
利用者や外部評価委員会による評価・検証により、いつ来ても楽しめる仕組み

2 管理運営の全体像



Ⅲ 事業活動

◎ 『科学館が目指す4つの目標像』を踏まえ、以下の構成に基づき、事業活動を展開する。

教育普及事業

「教育普及事業」は科学館の基幹事業であり、

- ・子どもたちが体験し、楽しむことで自由に、自発的に学べる展示・演説
- ・福岡の人や資源と連携しながら、子どもたちにより深い科学を提供する体験学習
- ・子どもたちの理科への興味を育むための学校教育との連携やアウトリーチ活動 等を行い、子どもたちの学力の向上や将来の人材育成に寄与する事業として展開を行うもの。

(1)展示

- ①基本展示
- ②企画展示

(2)演説

- ①サイエンスショー
- ②ワークショップ(ショートプログラム)
- ③プラネタリウム(ドームシアター)

(3)体験学習

- ①体験学習プログラム・イベント等
- ②クラブ活動
- ③ものづくり体験

(4)学校連携

- ①学校向け学習プログラム
- ②出前授業等
- ③学校教員との連携


(5)アウトリーチ活動

(6)ライブラリー活動

- ①科学図書等の提供・活用
- ②展示等との連携







交流事業

「交流事業」は、

- ・地域の賑わいを創出し、世代を越えた交流イベントや、地域や学校、大学と連携した活動等の地域交流
- ・リピーター利用を促進していくためのファンづくりや広報活動、双方向性を踏まえた情報発信 等を行うもの。

(1)地域交流

(2)ファンづくり

- ①科学館ファンクラブ
- ②カフェ・ミュージアムショップ
- ③リピート利用に向けた取組

(3)広報・情報発信




人材育成・ネットワーク形成事業


「人材育成・ネットワーク形成事業」は、

- ・双方向に関わり、交流し、みんなで育てる科学館として、子どもたちが様々な科学館活動に参画すること
- ・科学館ファンづくりも踏まえた、市民ボランティアの養成や学校や大学等とのネットワーク形成 等を行うもの。

(1)科学館活動への子どもの参画

(2)ボランティア養成

(3)ネットワーク形成




調査・研究事業

「調査・研究事業」は、

- ・めざましく進歩する科学技術の今を子どもたちが体験できるよう、専門性の高いスタッフにより、常に改善・更新や企画開発 等を行うもの。

(1)館の活動等に関する企画開発と調査・研究、改善

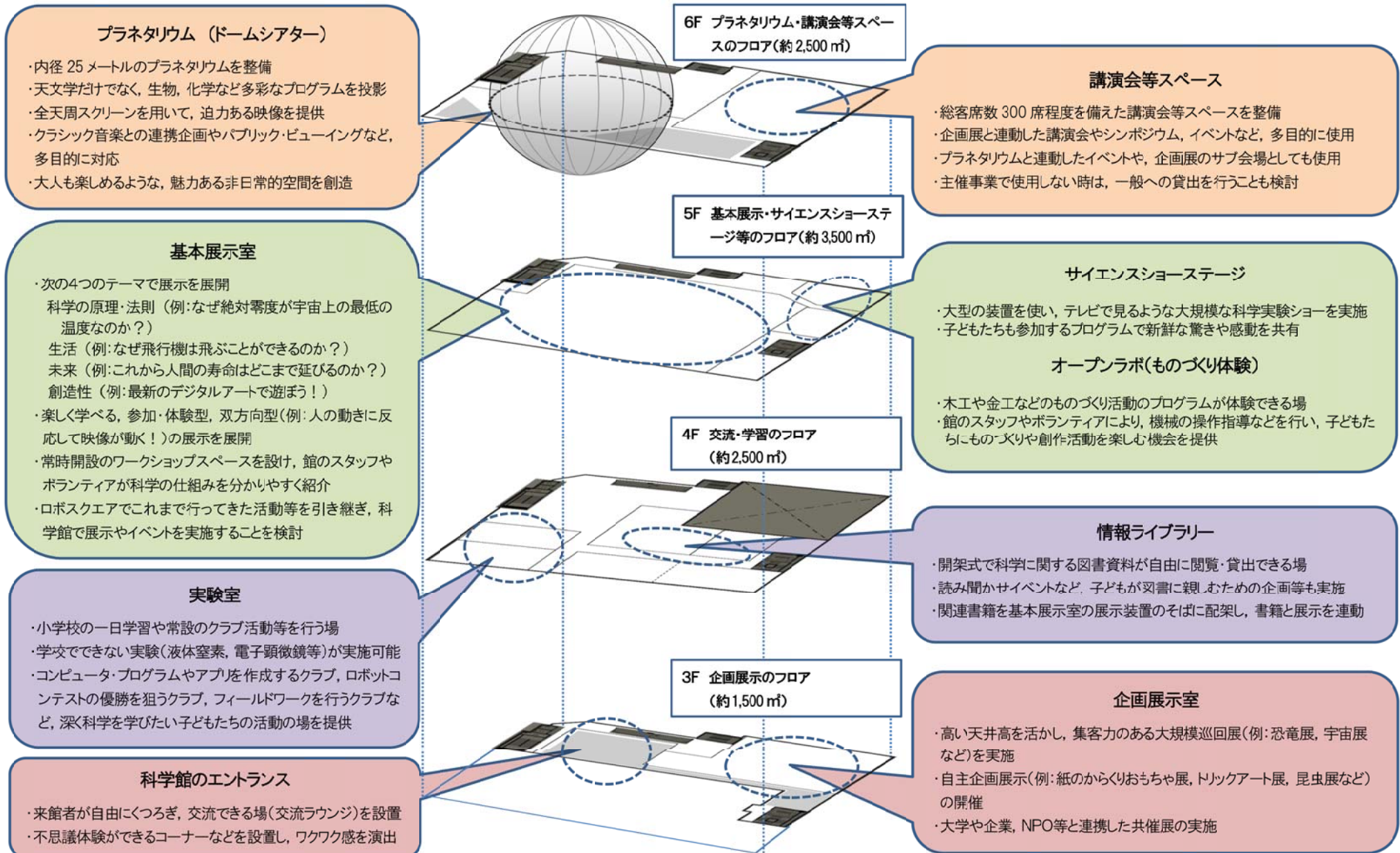
(2)資料の収集・保管、データベース構築



IV 科学館の諸室構成とその機能

※現時点でのイメージ

◎ 前頁の事業活動を、ワンフロア面積が広く、階移動が少ないユニバーサルデザインに配慮した諸室配置で実施



V 施設整備内容等

1. 整備地 福岡市中央区六本松四丁目 300 番 1
(九州大学六本松キャンパス跡地北側ゾーン東街区内 9,946.03 ㎡)

2. 科学館整備スキーム

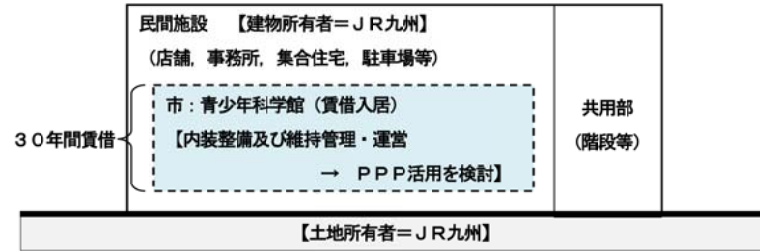
(1) 複合施設への賃借入居

- ① 九州旅客鉄道株式会社が整備を行う複合施設への賃借入居
- ② 市は科学館専有部分の内装整備及び維持管理・運営を実施

(2) 内装整備及び維持管理・運営への民間活用の検討

民間企業のノウハウ等の活用による効果が期待できることから、民間活用手法(PPP)について検討する。

■整備スキームのイメージ



3. 科学館施設規模 約 10,000 ㎡(専有部:約 8,000 ㎡, 共用部:約 2,000 ㎡)

4. 賃借期間 複合施設の供用開始時点から 30 年間

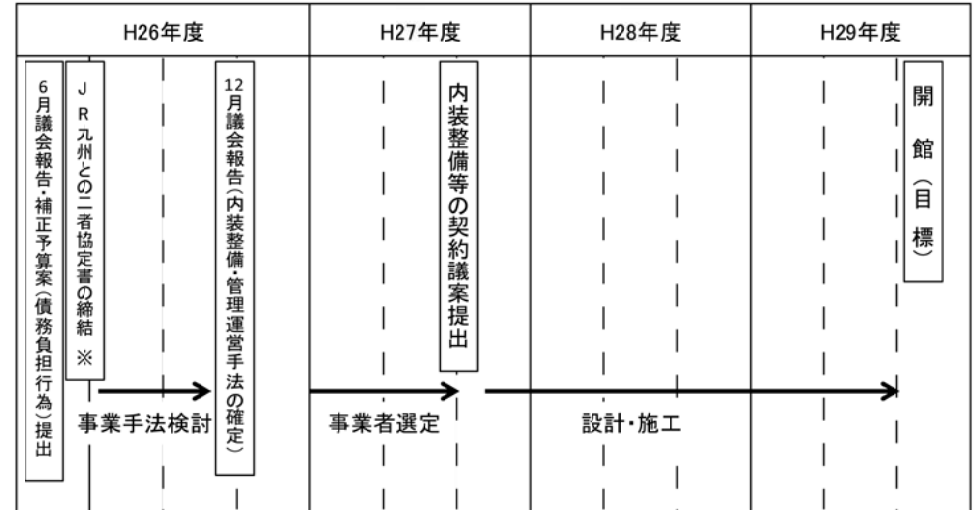
(参考) 東街区複合施設の計画概要

- (1) 導入機能 科学館, 法科大学院, 商業, シニアマンション, 駐車・駐輪場等を予定
- (2) 延床面積 約 37,000 ㎡(科学館を含む)
- (3) 駐車場・駐輪場等 駐車場 200 台程度, 駐輪場 400 台程度



VI スケジュール・その他

1 スケジュール(予定)



※ 二者協定書の概要については、別紙を参照。

2 開館時間, 休館日

開館時間については、主として青少年や学校団体の利用が中心であることを踏まえ、時間帯を検討する。なお、プラネタリウム(ドームシアター)については大人も楽しめる非日常的空間としての利用を、講演会等スペースについてはイベントや一般への貸出なども含めた多目的な利用を想定しており、これらの諸室が位置するフロアについては、夜間対応することを積極的に検討していく。

休館日についても、公共施設でありつつ、サービス向上や、他都市の状況といった観点も見極めながら検討を行っていく。

写真提供: 足立区こども未来創造館, 九州大学シリアスゲームプロジェクト, 科学技術館, 名古屋市科学館, 日本科学未来館, 多摩六都科学館, 熊本県(私学振興課), コニカミノルタ『YAC 天空未来教室 2014』, こどもクリエイティブタウン「ま・あ・る」